

平成 18 年 8 月 23 日

## 平成 18 年度 原子力体験セミナー【生活と環境コース】 受講報告書

物理化学系班 増 田 博 代

### 1. はじめに

全国の教職員を対象とする表題の研修に参加したので報告する。専門家による講義や実習、ワークショップ、原子力施設の見学を通じて放射線や原子力について、資源・エネルギー・環境等の教育に役立つ知識や情報を学ぶことが目的である。

### 2. 主催

財団法人放射線利用振興協会（文部科学省の委託事業）

### 3. 日程および会場

平成 18 年 8 月 9 日（水）～8 月 11 日（金）

セミナーハウス クロス・ウェーブ船橋（船橋市）

### 4. 内容

#### 第 1 日

講義 1 「生活の中の放射線」

大村 英昭 [ (財)放射線計測協会 ]

実習 「放射線を目で見よう」

油井 多丸 [ 国際医療福祉大学 ]

講義と実習 1 「放射線を測ってみよう」

鎌田 正裕 [ 東京学芸大学 ]

#### 第 2 日

講義 2 「放射線の人体への影響と防護」

明石 真言 [ (独)放射線医学総合研究所 ]

施設見学「放射線を利用した医療」

( 独 ) 放射線医学総合研究所

#### 第 3 日

講義 3 「地球環境問題と原子力」

長野 浩司 [ (財)電力中央研究所 ]

講義と実習 2 「放射線利用による新素材の開発」

須崎 高信 [ 元日本原子力研究所 ]

レポート作成および修了式

### 5. 所感

家庭生活・社会生活での身近な題材をもって資源・エネルギー問題、地球環境問題に関連する放射線や原子力についての基礎的な知識を講義、実習を通して学び有意義な研修となった。現代の産業、福祉に貢献する放射線利用の開発製品（一例として時計用電池を長寿命化する放射線を照射したポリエチレン薄膜や、消臭剤など）の紹介や、世界の医療の最先端に行く重粒子線治療の現場での講義と炭素イオン発生装置見学等、一貫して放射線・原子力への興味を喚起する内容であった。未だ記憶に新しい原子力発電所の臨界事故とその緊急被ばく医療施設での治療の詳細を知り、人が放射線に対し未知であることの恐怖と同時に、知ることの重要性を再認識した。

この研修を受講し、私の担当する 4 年応用物理実験のテーマの一つである「放射線」に関して基礎的な知識を整理するとともに、より深い知識を得る事が出来た。同コースで参加した物理教員の勝山智男教授と、これまで触れ得なかった原子力教育の深部について学生に正確な知識を伝えることの重要性、実験機器の改善等について話し合うことが出来たのも収穫の一つであった。